

Digest of Science of Labour

労働の科学



2 0 2 1
November
Vol. 76, No. 11



特集

専門図書館へ行こう! 図書館のちから(3)

「食」の情報を専門図書館で調べる／草野美保
日本で唯一の航空と宇宙の専門図書館で緩やかな時間を体感／廣嶋京子
野球文化をひろげる場所に／永沼里菜子

連載

ILOインド・南アジアこぼれバナシ⑧ 川上 剛

巻頭言

若い人の希望を膨らまそう
伊藤庄平

連載

チャレンジ! SDGs⑦
泉 貴嗣

芸能従事者の今⑥
森崎めぐみ

労働の科学

2021
November
Vol. 76, No. 11

巻頭言

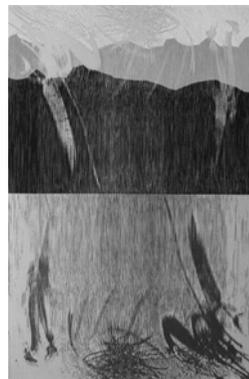
俯瞰 (ふかん)

創立百年——これからの労研の役割とあり方①

若い人の希望を膨らまそう

1

伊藤 庄平 [一般財団法人国際技能・技術振興財団 理事長]



表紙作品：山本美智代
「気流」

シルクスクリーン (90×63cm)

表紙デザイン：大西文子



専門図書館へ行こう！

図書館のちから (3)

「食」の情報を専門図書館で調べる

..... [公益財団法人味の素の文化センター] 草野 美保 4

日本で唯一の航空と宇宙の専門図書館で緩やかな時間を体感

..... [一般財団法人 日本航空協会] 廣嶋 京子 9

野球文化をひろげる場所に

..... [公益財団法人野球殿堂博物館] 永沼 里菜子 13

Graphic

広がる参加型職場環境改善 11 [見る・活動](130)

..... 仲尾 豊樹 口絵

Series

雲仙・普賢岳大火砕流から30年、今こそ「記録」を伝えたい(2)

「記憶」のリレー 大火砕流被災地に立つ「三角すい」に思う

..... 松下 英爾 18

Series

- 「#教師のバトン」で伝わる (7)
教職員の過酷な勤務環境 藤川 伸治24
- 芸能従事者の今 (6)
俳優の働き方の実際とインボイス制度 森崎 めぐみ27
- ILOインド・南アジア こぼればなし (8)
パキスタン、シアルコートのサッカーボール製造職場 川上 剛32
- 労研アーカイブを読む (72)
労働科学関連の文献を概観して
 -災害防止の科学的研究:世界の安全衛生名著全集- 椎名 和仁36
- 凡夫の安全衛生記 (58)
「頼りにしていた」労研の先生方と出版物 福成 雄三42
- チャレンジ!SDGs (7)
「羊頭狗肉」のSDGsが自社の首を絞める 泉 貴嗣44
- 漂流者たち クミジョの肖像 (9)
「連合は」クミジョをどうあつかってきたか(1) 本田 一成46

Column

- Talk to Talk
人たるは 肝付 邦憲50
- BOOKS
『野菜をまいにち食べて健康になる』
 野菜を食べよう! 椎名 和仁52
- 労働科学のページ53
- 次号予定・編集雑記60

若い人の希望を膨らませよう

伊藤 庄平

最近、こんな嬉しい話を耳にしました。ある小学校の先生が、一年生の子らを相手に「氷が溶けると何になりますか。」と尋ねたそうです。どの子も「はい、水になります。」と答える中で、たった一人「はい、春になります。」と答えた子がいたそうです。可愛い子ですね。先生も、思わず、その子の頭を撫でてしまっただけです。

氷が溶ける、そんな自然現象を単に物理的なものとして捉えず、暖かくなるので、花も咲くぞと希望を膨らましながら見つめている子、ほんとに可愛いと思います。こんな子どもがどんどん増えていくといいですね。

しかし、残念なことに、我が国の子ども数は38年連続で減少し、過去最少のこと。

この少子高齢化のますますの進展は、我が国の経済社会に深刻な影響をもたらすことは言うまでもありません。

そうは思いつつも、子どもを生まれ、育て、教育し、世に送り出す、自信を持ってそれができるという、そんな気持を若い方々に持つてもらうためには、若い人が先々の自分の人生に展望と希望の持てる、そんな社会を作ることが大事だと思います。前述の可愛い子どものように春を待つ、そんな心境になって貰うことです。

高度成長かつ年功序列の賃金体系の下で働いていた私たちにとっては、子どもを生み育てることにほとんど不安を持つ

ことなく、むしろ、子どもの成長を、希望と喜びをもって見守っていたものでした。

今は、高度成長など望むべくもなく、若年層の非正規雇用が高止まりし、その年収も300万円程度の頭打ちにあるような状況の下では、子どもを生み育てるだけの自信が持てない、こうした状況が続く限り少子化の方向転換は望めないと、思います。

そんな中、今年度に入って、経済財政諮問会議の有識者のメンバーが、若年者の正規雇用化を含め、雇用・所得環境の引上げを通じて安心して結婚し子どもを生める環境の整備についての提言をされたこと。何と云っても、「経済成長率」技術革新率+人口増加率一なので、今後の議論の発展に期待したいものです。

また、長い目で見たとき、こうした考えは少子化の改善にも繋がるのではないというようなニュアンスにも接しました。

第一生命ホールディングスが、2022年度から営業職員の給与体系を見直し、主に契約の件数や金額、資格に応じて支払う成果給の割合を引き下げる方針を決めたというのです。

同社では、入社6年目までに営業職員の約半数が退職していたといいますが、成果給の割合がかなり高く、ある程度の収入を得るためには高いノルマをこなすか、収入の不安定をもたらしていたのかも知れません。こうした高い割合の



いとう しろへい
一般財団法人国際技能・技術振興財団
理事長
大原記念労働科学研究所 理事

成果給も、不安定な収入となり、将来に向けた安定した生活設計に繋がらないでしょう。こうした点を見直し、安定した給与体系とすることは、将来への展望と希望を持つ子どもを生み育てる、そんな気持ち醸成する一つの契機になるかも知れません。

目下の日本社会では、多様な働き方を歓迎するあまりに不安定な非正規雇用を増やし、また、働き方に応じていう名分のもとに成果給の割合を高め、結果として、将来の生活設計を見通せない、そんな傾向を生んできたのかも知れません。これが、少子化の原因のすべてではないと思いますが、その一因であることは事実のような気がします。

以上、目下の雇用・賃金管理の流れに反するようなことばかり書きましたが、少子化の問題を念頭に、働く若者が将来に向けて展望と希望を持てるような配慮を加えていく、そうした社会が形成されることを願っています。